

## 滋賀県における障害者スポーツ施策について

### 1. 現状の計画等

#### (1) 新・障害者福祉しがプラン(平成24年3月策定)(抜粋)

##### ○スポーツやレクリエーション活動の振興

###### スポーツ大会の実施・選手育成

障害者スポーツ大会の開催

有望な選手の発掘・育成強化、全国障害者スポーツ大会への派遣

###### 多様な障害者スポーツの競技力の向上

滋賀県障害者スポーツ協会を中心とした各競技の競技団体の組織化の促進

障害者スポーツ指導員の養成、各種競技スポーツの指導体制の整備

###### 参加機会の拡大

スペシャルスポーツカーニバルの開催、スポーツクラブの育成等による多様な参加機会の提供

###### 障害者スポーツを支援する体制の充実

滋賀県障害者スポーツ協会や滋賀県立障害者福祉センター等との連携

###### スポーツ施設のバリアフリー化促進

既存のスポーツ施設における障害者用トイレの設置や、スロープ、エレベーター、点字ブロック等の整備

###### 競技性の高い障害者スポーツ大会への参加選手への支援

より競技性の高いスポーツ大会への参加を希望する選手に対する相談支援

#### (2) 滋賀県スポーツ推進計画(平成25年3月策定)(抜粋)

##### ○障害のある人の参加機会の拡大

###### 地域における参加機会づくり

スポーツ団体、特に障害者スポーツ団体や総合型クラブ、スポーツ推進委員と連携した障害のある人もない人も一緒にスポーツに取り組める機会づくりの推進

###### 指導者の養成

滋賀県スポーツ推進委員協議会、障害者スポーツ団体等と連携したスポーツ推進委員、総合型クラブ指導者等への研修機会の拡充

###### 障害のある人のスポーツの啓発

障害のある人に関わる団体間のネットワークの構築によるスポーツの啓発

企業の社会貢献として、障害者スポーツの啓発に関する企業等との連携の推進

###### 学校教育活動との連携

小中学校における福祉読本を活用した子どもの頃から福祉への関心や理解を深める取組の推進

障害者スポーツ団体と連携した学校の教育活動の中での障害者スポーツ選手と子どもたちがふれあうなどの機会づくり

## 2. これまでの施策・取組

### (1) 障害者スポーツ大会の開催

#### ① 滋賀県障害者スポーツ大会（県大会）

- ・対象競技は、陸上、水泳、卓球、フライングディスク、アーチェリー、ボウリング、サッカー、バスケットボール、ソフトボール、バレーボールの10競技。
- ・県大会は、全国障害者スポーツ大会の個人競技予選を兼ねており、成績優秀者の中から次年度の全国大会出場者を選定する。
- ・滋賀県、滋賀県教育委員会、開催市町と滋賀県障害者スポーツ協会の共催。

#### ◆今年度の開催予定

競技種目	開催日	会場
フライングディスク	5月18日(日)	県立長浜ドーム
アーチェリー	6月1日(日)	県立障害者福祉センター
ボウリング	7月27日(日)	ボウル滋賀
水泳	8月24日(日)	県立障害者福祉センター
陸上	9月28日(日)	皇子山陸上競技場
卓球	10月26日(日)	草津市立総合体育館
バレーボール	11月13日(木)	彦根市民体育センター
ソフトボール	11月16日(日)	水ロスポートの森
サッカー	11月16日(日)	水ロスポートの森
バスケットボール	11月16日(日)	甲賀市水口体育館

#### ② スペシャルスポーツカーニバル

- ・主に知的障害者（児）を対象とした県大会（運動会）であり、知的障害者（児）の相互の親睦と体力の向上を図るとともに、県民の知的障害者（児）に対する理解と協力を深めることを目的とする。
- ・実施競技は、徒競走、玉入れ、800m走、1500m走、支部対抗リレー、ダンスなどがある。
- ・県内の知的障害者スポーツイベントとして、昭和57年以来30年以上の歴史がある。

#### ◆今年度の開催予定

平成26年7月6日(土) 県立長浜ドーム

### (2) 全国障害者スポーツ大会への選手派遣等

#### ① 今年度の開催について

開催地：長崎県

開催日程：平成26年11月1日(土)～3日(月)

#### ② 選手団の派遣について

- ・開催地への出発日に滋賀県選手団の結団・壮行式を開催。
- ・全国障害者スポーツ大会中は、大会前日に行われる公式練習から参加。監督・コーチ・総務スタッフが移動日・練習日を含む6日間の期間中、生活面・競技面などから選手をサポート。
- ・帰県時には滋賀県選手団の解団式を開催。
- ・団体競技については、近畿予選会に出場し優勝すると全国大会の出場権が得られるため、優勝した場合にチームを全国大会に派遣することとなる。

③本県の参加者数の推移および成績

年度	大会	参加者数	メダル数				大会新記録	自己新記録	団体競技出場実績
			金	銀	銅	計			
H25	第13回 東京	40	13	10	9	31	3	21	ソフトボール
H24	第12回 岐阜	25	15	9	10	34	1	19	—
H23	第11回 山口	26	7	8	9	22	1	14	—
H22	第10回 千葉	24	11	9	5	25	5	21	—
H21	第9回 新潟	25	13	12	9	34	3	18	—

④派遣選手の育成

- ・前年度の県障害者スポーツ大会参加者の中から、優秀成績者を集め、全国障害者スポーツ大会の派遣選手を育成する。
- ・記録会（4月）、合同練習会（5月）、合同合宿（6月）を実施するほか、競技別に全国障害者スポーツ大会まで月2回程度練習会を開催。全国障害者スポーツ大会後も1月・2月・3月に合同練習会を実施。

(3) 障害者スポーツ大会出場選手の表彰（滋賀県民スポーツ大賞）（教育委員会と共管）

国際スポーツ競技大会、国際障害者スポーツ大会、全国スポーツ競技大会および全国障害者スポーツ大会等において、優秀な成績を収める等、本県スポーツの振興および競技力の向上に寄与し、県民に夢と希望を与えた個人または団体の功績を讃え、表彰する。

栄誉賞	オリンピック・パラリンピック・デフリンピック(1～3位)、アジア競技大会・アジアパラ競技大会優勝
優秀賞	オリンピック・パラリンピック・デフリンピック(出場者)、国民体育大会・成年の部(優勝)、全国障害者スポーツ大会(特に優秀な成績)
若鮎賞	国民体育大会・少年の部(優勝)、全国障害者スポーツ大会(特に優秀な成績)、インターハイ・全国中学校体育大会等(優勝)
特別賞	国際的または全国的な活躍により本県スポーツの振興、またはスポーツに対する県民意識の高揚に特に功績が大きく、知事が賞を贈るに値すると認められたもの

◆平成25年度表彰者【滋賀県民スポーツ大賞 栄誉賞】

森本 真敏 氏 第22回夏季デフリンピック ハンマー投げ 銀メダル  
山田 光穂 氏 第22回夏季デフリンピック 柔道 銅メダル

(4) 地域でつながるスポーツの輪推進事業

①事業概要

障害の有無にかかわらずスポーツを通じて交流する機会を提供するとともに、より多くの障害者が身近な地域でスポーツを取り組める環境づくりを進め、あわせて、若年層の障害者スポーツ競技人口の増加を図るため、障害者スポーツ関係者と総合型地域スポーツクラブやスポーツ推進委員の協力を得て、体験型スポーツイベントを開催する。

②昨年度実績

■地域でつながるスポーツフェスタ2013

- 11月4日(月・休日) 長浜市民体育館 参加人数：240人
- 11月9日(土) 滋賀県立障害者福祉センター 参加人数：384人

■関連イベントの実施

- パラリンピック選手によるボッチャ講習会と講演  
日時：平成25年9月25日(水)  
対象：県立八日市養護学校小・中・高等部の生徒および教員約100名  
講師：内田 恵三 選手(北京パラリンピック・ボッチャ競技出場)
- スポーツ講習会(スポーツ吹矢等)とパラリンピック選手による講演  
日時：平成25年10月31日(木)  
対象：県立長浜養護学校小・中・高等部の生徒および教員約100名  
講師：西山 克哉 選手(ロンドンパラリンピック・セーリング競技出場)

② 今年度の事業で目指すべきこと

- ・地域の行政機関や関係団体に企画段階から参加、協力してもらうことで、地域における障害者スポーツ関係団体と生涯スポーツ関係団体の連携強化を図る。
- ・学校教育関係者の協力を得て、特別支援学校や特別支援学級の児童・生徒にスポーツの楽しさを知ってもらう機会を増やし、障害者スポーツの裾野の拡大を図る。

③ 今年度の事業予定

■地域でつながるスポーツフェスタ2014

開催日：平成26年11月24日(月・祝)

開催場所：長浜市民体育館

■関連イベントの実施

特別支援学校や学級の障害児および保護者に、障害がある競技者(パラリンピック出場選手など)を派遣し、ふれあいの機会を設ける。[H25:2か所 → H26:4か所]

3. 障害者スポーツを巡る国の動向

平成23年8月 「スポーツ基本法」施行

※基本理念において、障害者スポーツの推進を明記

平成24年3月 「スポーツ基本計画」策定

※国民の誰もが、体力、年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境整備の推進を政策目標の一つとして位置付け

平成26年4月 障害者スポーツ事業が厚生労働省から文部科学省へ移管(別紙)

4. 本県障害者スポーツの現状と課題

(現状)

県大会の参加者が高齢化・減少傾向にあり、新規の参加者が少ない状況にある。

◆障害者スポーツ大会の参加者推移

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
陸上	430	299	292	238	244
水泳	51	65	58	64	54
卓球	210	180	171	192	173
フライングディスク	307	278	229	195	186
アーチェリー	79	62	54	47	55
ボウリング	86	87	83	71	75
サッカー	51	53	52	82	50
バスケットボール	25	40	38	68	33
ソフトボール	38	45	57	119	79
バレーボール	53	41	27	36	31
スペシャルスポーツカーニバル	575	653	613	523	547
計	1905	1803	1674	1635	1527

(課題)

2024年全国障害者スポーツ大会の開催に向けて、若い障害者がスポーツを始めるきっかけづくり、選手育成や競技力向上などに関する施策や組織体制の検討などについて、教育委員会と連携しながら進めていくことが必要。

- ・障害者がスポーツをする環境として、障害のあるなしにかかわらず身近な地域で気軽に活動できるためのきっかけや場づくりなどの環境整備
- ・バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮され、運営面や指導面等において工夫されている施設整備 夏津 障害者福祉センター
- ・地域で楽しむスポーツから全国レベルの競技スポーツまで、それぞれの場面、障害に配慮した指導・支援ができる指導者の養成・確保

# 障害者スポーツの支援体制について

- ①平成26年度から移管する事業
- ②従来からの文部科学省の事業  
(平成26年度の新規事業を含む。)
- ③引き続き厚生労働省が行う事業

※計数は26年度予算額

	考え方	厚生労働省	文部科学省
競技スポーツの支援	障害者アスリート等への支援 (スポーツの振興としての支援)		メダル獲得に向けたマルチサポート戦略事業【2,834,069千円の内数】 ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設活用事業【658,559千円の内数】 パラリンピックに向けた強化・研究活動拠点に関する調査研究【22,435千円】 JSC運営費交付金(競技性の高い障害者スポーツ支援に関する基盤構築事業) 【5,274,804千円の内数】 JSC研究施設整備費補助金【682,875千円の内数】
			日本障害者スポーツ協会補助【1,012,377千円】 パラリンピック等世界大会への派遣 (総合国際競技大会派遣等事業) 選手の育成強化 (総合国際競技大会指定強化事業) 障害者スポーツの裾野を広げる取組 (障害者スポーツ振興事業) 全国障害者スポーツ大会の開催 (全国障害者スポーツ大会開催事業) 【55,000千円】
障害者スポーツの振興としての支援	スポーツの振興としての支援		健全者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業【103,967千円】 障害者のスポーツ参加における安全確保に関する調査研究【12,026千円】 体育活動における課題対策推進事業【80,703千円の内数】 スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究【49,676千円の内数】
障害者の生活をより豊かにする観点やリハビリテーションの一環としての支援	障害者の生活をより豊かにする観点やリハビリテーションの一環としての支援	地方公共団体等が実施する障害者スポーツ大会、各種スポーツレクリエーションの開催等(地域生活支援事業) 【地域生活支援事業462億円の内数】 障害者スポーツ選手に対するメディカルサポート体制の整備(国立リハビリテーションセンター) 【14,404千円】	

②

①

②

③